



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月10日

上場会社名 株式会社エクサウィザーズ 上場取引所 東
 コード番号 4259 URL <https://exawizards.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石山 洸
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート統括部長 (氏名) 奥野 浩平 TEL 03-6453-0510
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,196	-	△237	-	△236	-	△223	-
2022年3月期第1四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 △227百万円 (-%) 2022年3月期第1四半期 -百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△2.77	-
2022年3月期第1四半期	-	-

- (注) 1. 2022年3月期第1四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2022年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	7,633	6,441	83.9
2022年3月期	7,865	6,633	83.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 6,401百万円 2022年3月期 6,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年3月期	-	-	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,000～ 6,500	45.5～ 35.1	50～1	-	50～1	-	50～1	-	0.63～0.01

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	80,956,300株	2022年3月期	79,928,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	-株	2022年3月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	80,838,800株	2022年3月期1Q	-株

（注）1. 当社は、2021年8月28日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「期末発行済株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

2. 当社は、2022年3月期第1四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期第1四半期の期中平均株式数を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更について）

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結累計期間の末日現在において判断したものです。なお、当社は、2022年3月期第1四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」とのミッションの下、AIプラットフォーム事業においては、顧客課題解決を通じて、様々な業界の産業・社会課題を発見し、その革新を実現し続けることをめざして事業を推進しています。またAIプロダクト事業においては、広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用可能なAIソフトウェアを提供し、社会課題を解決することをめざして事業を推進しています。

当社グループが事業を展開するデジタル・トランスフォーメーション（DX）及びAI活用に係る領域では、DXの推進にむけての企業投資意欲が高まっており、AIプラットフォーム事業、AIプロダクト事業の双方で顧客企業から旺盛な新規受注が期待できる良好な事業環境が継続しています。

(経営成績)

売上高

当第1四半期連結累計期間における売上高は1,196百万円となりました。AIを用いたDX支援やAIプロジェクトによるイノベーション創出案件を多数の大手企業と取り組んだことにより、長期継続顧客（注1）を中心に顧客単価が向上しました。

売上原価、売上総利益

当第1四半期連結累計期間における売上原価は535百万円となりました。主な要素は人件費等となります。以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上総利益は660百万円、売上総利益率は55.2%となりました。

販売費及び一般管理費、営業損益

当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は897百万円となりました。主な要素は人件費、採用費等となります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の営業損失は237百万円となりました。

営業外損益、経常損益

当第1四半期連結累計期間の営業外収益は1百万円となりました。営業外費用は0百万円となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経常損失は236百万円となりました。

特別損益、親会社株主に帰属する四半期純損益

当第1四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は222百万円となりました。特別利益に、AIプロダクト事業に属する一部事業の譲渡に伴う利益として13百万円を計上しました。

また、当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失は、法人税等の合計として4百万円計上したことにより、223百万円となりました。なお、当連結会計年度より法人税のグループ通算制度を導入し、子会社間の利益・損失を通算して税額計算を行っております。

(注)

1. AIプラットフォーム事業において、当社が4四半期以上連続で契約している顧客（exaBase コミュニティによる収益等を除く）

(セグメント業績)

AIプラットフォーム事業

当第1四半期連結累計期間においては、機械学習・深層学習及び統計学などを用いた画像・データ解析技術等を活用したAIプロジェクトによるイノベーション創出を多数の大手企業と取り組みました。AIを用いたDX支援に関する企業の強いニーズも後押しとなり、長期継続顧客を中心に顧客単価が向上しました。

この結果、売上高は1,057百万円、売上総利益は620百万円、売上総利益率は58.7%、営業利益は41百万円、売上高に占める長期継続顧客売上の比率は71.6%となりました。

AIプロダクト事業

当第1四半期連結累計期間においては、既存プロダクトの販売拡大に加え、AIプラットフォーム事業によって得られた知見をもとに、新たなサービス開発にも取り組んでまいりました。

DX AIプロダクト群では、企業のDX人材の発掘・育成のための「exaBase DXアセスメント&ラーニング」、データ活用・分析のための「exaBase 予測・分析」を中心に導入企業数が増加しました。

ソーシャルAIプロダクト群では、「CareWiz トルト」「CareWiz ハナスト」が、それぞれのパートナー企業との協業により、販売拡大が進みました。

一方で、組織拡大に伴う人員増加、プロダクトの開発に係る先行投資に伴い人件費等が増加しました。

この結果、売上高は138百万円、売上総利益は40百万円、売上総利益率は28.9%、営業損失は278百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は7,633百万円となり、前連結会計年度末に比べ232百万円減少いたしました。これは主に、ソフトウェアの増加等により無形固定資産が115百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産、現金及び預金がそれぞれ209百万円、64百万円減少したことによるものであります。

負債

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は1,191百万円となり、前連結会計年度末に比べ40百万円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が納税等に伴い50百万円減少したことによるものであります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は6,441百万円となり、前連結会計年度末に比べ191百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が223百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想については、2022年5月11日に開示した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,537	5,473
売掛金及び契約資産	914	705
その他	183	88
流動資産合計	6,636	6,268
固定資産		
有形固定資産	126	147
無形固定資産		
のれん	212	199
ソフトウェア	594	723
その他	0	0
無形固定資産合計	807	922
投資その他の資産	295	295
固定資産合計	1,229	1,365
資産合計	7,865	7,633
負債の部		
流動負債		
1年内償還予定の社債	6	6
1年内返済予定の長期借入金	29	26
未払金	212	227
未払費用	254	292
未払法人税等	71	20
その他	250	215
流動負債合計	824	789
固定負債		
長期借入金	310	304
退職給付に係る負債	58	58
資産除去債務	39	39
固定負債合計	408	402
負債合計	1,232	1,191

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,274	2,292
資本剰余金	5,059	5,077
利益剰余金	△744	△967
株主資本合計	6,589	6,401
新株予約権	3	3
非支配株主持分	40	36
純資産合計	6,633	6,441
負債純資産合計	7,865	7,633

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	1,196
売上原価	535
売上総利益	660
販売費及び一般管理費	897
営業損失(△)	△237
営業外収益	
受取利息及び配当金	0
助成金収入	0
その他	0
営業外収益合計	1
営業外費用	
支払利息	0
為替差損	0
営業外費用合計	0
経常損失(△)	△236
特別利益	
事業譲渡益	13
特別利益合計	13
税金等調整前四半期純損失(△)	△222
法人税、住民税及び事業税	5
法人税等調整額	△0
法人税等合計	4
四半期純損失(△)	△227
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△223

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間
(自2022年4月1日
至2022年6月30日)

四半期純損失(△)	△227
四半期包括利益	△227
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△223
非支配株主に係る四半期包括利益	△4

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位:百万円)

	AIプラットフォーム 事業	AIプロダクト 事業	計
売上高			
顧客との契約から生じる収益	1,057	138	1,196
外部顧客への売上高	1,057	138	1,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,057	138	1,196
セグメント利益又は損失(△)	41	△278	△237

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。